

尾ノ上の風

第 22 号



学ぶ きたえる 助け合う

文責:校長 村上 正祐

突然の休校 子どもたちとの1日

それは本当に突然すぎました。夕方、仕事を終えて駐車場に歩いているとある先生が私を呼び止めるなり、スマホの画面を私にさっと見せました。きっと多くのご家庭でも同じだっただろうと思います。私は頭が混乱しました。そして、大変なことになったとすぐに堀川教頭先生を呼んだのでした。

翌日の28日（金）は、本当に時間とのたたかいでした。担任の先生はもちろん、専科の先生や事務職員、給食関係の職員・・・と学校全体が、5時間授業のこの日をあわただしく過ごしました。たださえ遠足が中止になってがっかりしていた子どもたちは、3月の授業が突然なくなったことに驚いたことと思います。

外出も自由にならない現状で、ご家庭のお子さんはどのようにすごしているのでしょうか。お仕事を急に休んだり、調整をされたりと大変な思いをされたご家庭もあると思います。地域をときどき回ってみました。尾ノ上小の保護者の皆様のご理解とご協力で、子どもたちが事故やケガに巻き込まれるといった連絡もありませんでした。しっかりとご家庭でこの休校の意味の重さをお子様と言い聞かせていただいているのだと改めて思ったところです。本当に感謝申し上げます。ありがとうございます。

連絡のすべては安心安全メールで伝えさせてもらっていますが、十分にお伝えできないことにもどかしさを感じております。担任の先生方も子どもたちの顔を思い浮かべながら、連絡事項の文書を作成しています。先週6日は、今日の臨時登校日を楽しみにしながら、全職員で校舎内や体育館の消毒作業を行いました。9日は、午前中という限られた時間しかありませんが、子どもたちと過ごすことのできる貴重な時間です。どの学級でもしっかりと準備をされていました。特に、6年部の担任は、6年生には何とか卒業式を無事に迎えさせたいと卒業式の練習を学級毎に行います。そのための準備や打ち合わせを熱心に行っていました。

子どもたちと過ごせるのは、6年生が3月19日の卒業証書授与式、1年生から5年生が24日の修了式だけとなりました。職員一同、この日の時間を大切に使えるよう準備をしっかりと行ってまいります。

安心メールは届いていますか

子どもたちの学習をはじめ、休校中の過ごし方や給食費の返金などいろいろな連絡を安心メール行っております。お知らせ量が多いときはPDFファイルで送る場合もあります。ご多用と思いますが、必ずご一読くださいますようお願いいたします。登録がまだの方や携帯やメールアドレスを変更された場合は、必ず登録をされますようお願いいたします。

子どもたちと会えました

今日、10日ぶりに子どもたちの元気な声を聞きました。すごくうれしかったです。iPadをインターネットにつないで学校朝会を行いました。始め、少し不具合もありましたが、校長室や給食室からテレビ電話を全教室につないで中継ができました。また、この日は6年生はクラスごとに修了式を行った後、卒業式の練習を行いました。子どもたちと会える本当に貴重な1日になりました。

こんにちは！お仕事&授業拝見37 ひまわり学級 社会 片平先生編

片平先生の授業を参観して以下のことがいいなと感じました。

- ①表情に笑顔があり丁寧な言葉遣いで穏やかに授業をすすめていること
- ②視覚的支援をしながら分かりやすい提示をして授業している
- ③作業活動を取り入れたり、動画を利用したりして興味をもたせようと先生の工夫の意図が見られること。

本時の授業は「江戸時代の政策について調べよう」が課題でした。はじめの5分を見られず残念ですが、外様や譜代大名の配置図を大型テレビ画面に提示して、子ども達の手元にも同じ資料を用意してありました。

良いと感じたことのひとつは、実際に資料に色塗りをさせていたことです。見るだけでなく実際に作業活動することで、大名の数の多さや分布の特徴に気づくことがあるからです。色を塗らせた用紙は小さいサイズでもあったので、子ども達はすぐに取りかかろうという気持ちになって、集中して塗る活動を終わることができ、実際に作業時間もそれほどかかりませんでした。

また、武家諸法度の抜粋したものを見せたり、外様大名の位置を学習させたりしたあとに、まとめとしてNHKのビデオ見せて理解を深めるようにされていました。子どもたちの興味・関心が途切れないよう工夫された授業でした。



一人一人の学習の進み具合を見ながら、個別指導をする片平先生



片平 健太(かたひら けんた)先生 尾ノ上小2年目

【片平先生にインタビュー】どうして先生になろうと思ったのですか。

父が仕事を退職後に小学生にバスケットボールを教えていたので手伝って指導したことがありました。子どもが1日1日成長して伸びていくことが好きでやりがいを感じ、そのうち学校の仕事に興味が出てきました。それから教員免許を取ろうと勉強したのが始まりです。

こんにちは！お仕事&授業拝見38 2年4組 算数 出口先生編



電子黒板で子どもの発表を確認(上)とペアで対話する子どもたち(下)

出口先生の授業を参観して、大事にしておられることがよく分かりました。それは、

- ①学級全体の聴く態度を一貫して育てていること
 - ②子どもたちの説明活動をととても大切にしていること
 - ③教師の表情や雰囲気子どもたちに大きな安心感を与えていること
- ということです。

授業開始で先生が板書を始めると子どもたちもノートに一斉に書き始めました。迷いなくさっと書き始めた姿は、毎日の積み上げであり、2年生でありながらかなり早く書き上げる子がいて驚きました。今日の問題を示すと子ども自身で解決する時間をしっかりと取られました。どうしようかと考えていた子もいますが、いろいろやりだしました。

例えば、ある子は一つ一つ筆算でやる、またある子は算数セットのお金を出してやり始める、などそれぞれが思いついた方法でやってみる習慣が育ちつつありました。対話活動では、2年生の発達段階を考え、自分の考えをペアの子に伝える活動を確保。説明活動では、時間をしっかりと取られ、子どもが発表した後で先生は、「〇〇さんが言った意味わかるかな」「筆算のイメージってわかるかな」と聞き返されたり、実物投影機で実際にノートを写したりされました。子どもも自分から黒板に書いて説明をするなど説明活動する時間をたっぷり与えておられました。辛抱強く待つ姿勢を貫かれているからこそ、子どもたちは次第に安心して発表するようになってきたのだと納得の1時間でした。



出口 賀代子(でぐち かよこ)先生 尾ノ上小4年目

【出口先生にインタビュー】どうして先生になろうと思ったのですか。

対人関係の仕事よりも研究をするような仕事をしたかったのですが、教育学部へ進学しました。卒業後、現場に出てから子どもたちと接する面白さを実感して目覚めました。それはいろいろな子どもたちと話したり、遊んだりしてふれあったことがきっかけでした。